

1 取り上げる人権課題「東日本大震災に起因する人権問題」

2 取り上げた人権課題の背景と現状

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と、それに伴って発生した津波によって福島第一原子力発電所で事故が起き、放射性物質が大気中に放出された。そのため、多くの住民が避難生活を余儀なくされている。このような中、避難先では、避難した人が「放射線がうつる」と小学校でいじめを受けたり、ホテルでの宿泊を拒否されたりするなど、「福島県から来た」という理由だけで、差別的扱いを受けている人たちがいることが分かった。これらは、放射線に対する知識が曖昧で、「放射線を浴びるとどうなるか分からない」という不安から、根拠のないうわさに流され、事実を確かめずに行動することが要因として考えられる。

3 児童の実態

本学級の児童は、生活の中において、根拠のないうわさに流されて、事実を確かめずに周囲に同調してしまうことがある。そこで、以下の観点で児童の意識調査を行った。

【アンケート調査等からみた本学級の実態】

＜東日本大震災にかかわるアンケート＞

〈分析の観点〉	概ね思う
東日本大震災によって被災した人を助けたいと思う。	約90%
放射線を浴びることは、恐ろしいことだと思う。	約80%
福島原発事故によって放射線を浴びた人と生活するのはなんとなく怖い。	約60%

＜生活アンケート＞

〈分析の観点〉	概ね思う
人から聞いたうわさ話を信じる。	約70%
うわさ話を聞いたら、事実を確かめようとする。	約40%

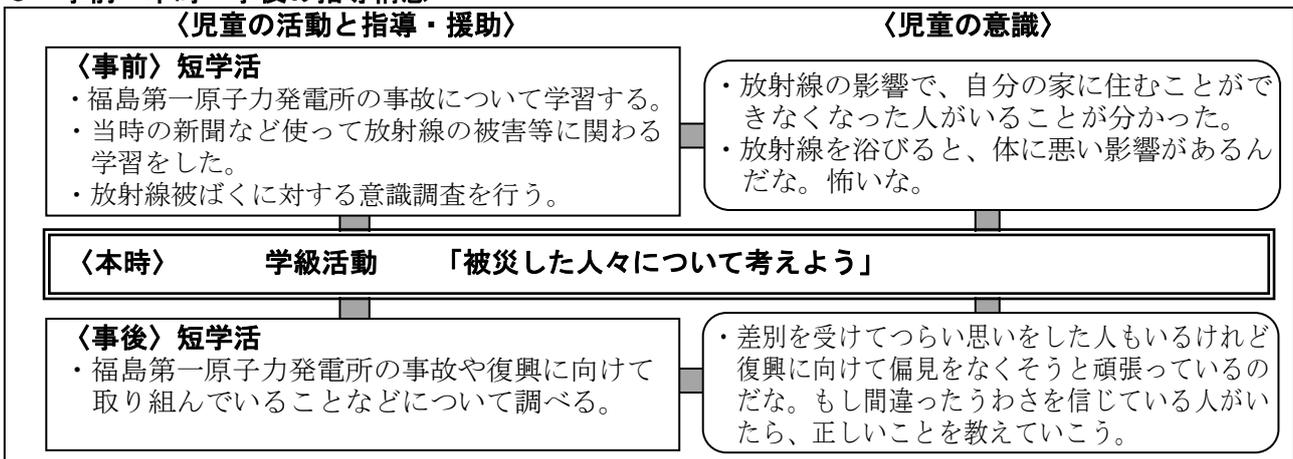
上記の結果から、本学級の児童は、被災した人々を助けたいという思いはある一方で、放射線を浴び、被ばくした人とかかわることに抵抗があると考えていることが分かった。これは、事実を正しく認識しておらず、「放射線は恐ろしいものだ。」という印象から判断していることが要因であると考えた。また、学級の生活アンケートからは、はっきりした事実が分からない中でも、うわさを信じる傾向もあることが分かった。

そこで本時は、福島県から避難してきた人に対する差別問題の事例から差別が起きた原因を考えたり、「自分が同じ立場だったら」と考える活動を通して、正しいことを知らないままに、周りの人の意見やうわさに流されて行動してしまうことが差別につながることに気付くようにする。また、自分たちの周りにも起こりうることに気付き、差別を許さず、自分で事実を確かめて、正しい知識で判断し行動していこうとする態度を育みたい。

4 指導改善の手立て

- ・ どうして差別が起きたのかを考える中で、「どうして放射線はうつると思ったの。」などと問い返すことで、知識が曖昧なまま差別をしていることに気付くことができるようにする。
- ・ 「自分にもそんな気持ちはないか。」と考えることで、自分の中にも差別につながる弱い心があることに気付き、自分の生活の中で具体的な実践策をもつことができるようにする。

5 事前・本時・事後の指導構想





---

## 解 説

---

### 1. 人権課題「その他の人権（東日本大震災に起因する人権問題）」を上げるにあたって

2011年3月11日に発生した東日本大震災によって、多くの住民が避難生活を余儀なくされています。このような中、避難した人が「放射線がうつる」と小学校でいじめを受けたり、ホテルでの宿泊を拒否されたりするなど、差別的扱いをされていることが分かりました。

自分たちの周りにも起こりうることに気付き、差別を許さず、自分で事実を確かめて、正しい知識で判断し行動していく態度を養うことが大切である。

### 2. 本実践の指導上のポイント

本実践を行うにあたって、生活の中において、根拠のないうわさに流されて、事実を確かめずに周囲に同調してしまうと差別問題に発展することがあることに気付くことが大切である。本実践では、東日本大震災を経験し避難してきた人たちが受けた差別を通して、自分も正しい知識をもっていないのに、周りに同調してしまっていたのではないかと考え、身近な問題としてとらえることができるようにしている。

【確かにする場】において、周りの人の意見やうわさに流されず、自分の正しい知識で判断し、行動することが大切であるという自己啓発力を育てようとしています。

【学習成立を見届ける場】では、周りの人の意見やうわさに流されないようにするために、自分にできる実践策を考え、自己啓発力をより確かなものにするようになっています。